

更新

参加型地域社会開発 (PLSD) Participatory Local Social Development (PLSD)		
対象国の条件：		
研修コース番号：201984505-J002		
案件番号：201984505		
主分野課題：ガバナンス/地方行政		
副分野課題：農村開発/その他農村開発		
使用言語：英語		
案件概要		
地域社会を持続的に活性化していくには、地域社会の経済環境や社会規範、能力・経験といった要素を的確に把握し、開発の担い手である住民や地域の推進組織による地域力や自治力の強化が必要がある。		
本研修は大濱准教授が体系付けた「参加型地域社会開発(PLSD)」理論を基に、地域社会の開発に従事する行政官やNGO関係者が、地域社会全体の自立的・持続的発展への社会的基盤の整備・構築を促進する理論・実践手法を講義、海外事例紹介、日本の現場視察を通じて習得するものである。		
目標／成果		対象組織／人材
【案件目標】 研修員がPLSDの視点を用いて研修員自身が担当する地域社会開発プロジェクトの改善案を提案できる。		【対象組織】 地域レベルの住民参加型の社会開発に従事する中央政府、地方自治体、NGO、大学、研究機関等。
【成果】 1. 対象地域住民を効率的に意識化・組織化するための参加型アプローチの知識が向上する。 2. 地域社会の状況に応じた地域住民の能力育成、資源利用管理の分析手法を理解する。 3. 参加型地域社会開発の計画立案、事業実施の総合的な能力が向上する。 4. PLSDの視点を用いて、自国/地域の現状を再分析し、実情に合ったプロジェクト改善提案書を作成できる。		【対象人材】 地域レベルにおける住民参加型の社会開発プロジェクトの計画・実施・研修に係る現場経験年数が5年以上の者 ・参加型手法と地域社会の特徴を取り入れられる社会開発プロジェクトを担当していることが望ましい ・JICAプロジェクト関係者の参加を推奨 ・講師や他の研修員と討論や演習が出来る程度の英語力が必須
内 容		
ー 地域住民参加を促進する参加型アプローチ手法 ・参加型地域社会開発（PLSD）の歴史的背景及び基本的概念 ・参加型開発（PA）の理論と実践、有効性と限界		本邦研修期間 2019/8～2019/9
ー 地域社会固有の現状を分析する方法 ・開発三要素と自己組織力、地域コミュニティ・システムと機能類型、分析手法		担当課題部 産業開発・公共政策部
ー 事例研究・現地視察：長野県飯田市、兵庫県神戸市、フィリピン、タンザニア等		所管国内機関 JICA中部
ー 開発事業実施のための手法 ・プロジェクト調査、計画、実施・管理、評価の内容および留意点と手法、プロジェクト改善案の検討		
		関係省庁
		実施年度 2019～2021
主要協力機関	調整中	
特記事項 及び ホームページ	大濱裕（2007）『参加型地域社会開発（P L S D）の理論と実践 - 新たな理論的枠組みの構築と実践手法の創造-』 ふうろう出版	